

午後1時零分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番桑野博明議員の質問を許可します。12番桑野博明議員。

（12番桑野博明君登壇）

○12番（桑野博明君） 皆さんこんにちは。一般質問初日の一番しんどい部分になります。3番目、一般質問をさせていただくようになりました。

去る10月29日朝倉支所で朝倉市職員による提案発表会と高校生の提言、朝倉市の未来予想図の発表会が行われ、傍聴してまいりました。職員提案は4名と1係で7つの提案がありました。提案内容については一長一短あるので、ここでお話するのはどうかと思いますが、残念なことに参加者が少なかったことに対してがっかりいたしました。今後の朝倉市の職員の意識、それから仕組み、提案制度に対する仕組みに大きな期待をしております。ぜひ来年度も実施していただき、職員の提案を聞きたいなというふうに思っております。高校生の朝倉市の未来予想図では、個人やチームで7つの提言が発表されました。今後の朝倉市において、私たちの気づかなかったことが数多く提言いただきました。ホームページで提言の内容がありますので、ぜひ皆さんも提言の内容を読んでいただきたいと思いますというふうに思っています。

それからこの未来予想図に関しては、ぜひ来年度も実施いただければというふうに思っていてこの10月29日の傍聴をしてまいったことを皆さんに御報告して、次は質問席において一般質問させていただきます。

（12番桑野博明君降壇）

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） では、通告に従いまして質問をしてまいります。

まずワンストップサービスですが、ワンストップサービスについては、市長のマニフェストにもあったので、十分に市長の思いを受けて導入、運用を考えてあるというふうに思いますが、まず最初に、ワンストップサービスの目的と成果指標と言いますか、どういうふうにしたらワンストップサービスが、どういうふうな状況になったらワンストップサービスが成功と言われるかをまず教えてください。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） 目的はお客様にとってわかりやすく安心で手間を軽減できる、そういう窓口を目指しております。それから成果指標につきましては、実際にワンストップを体験していただいたお客様にアンケートを記入していただくかというふうに考えております。そのアンケートの結果、満足度と言いますか、そういうものを集計をして、成果指標としたいということで考えております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 具体的というよりも、思いを今言っていたと思うんですが。

その次に、ワンストップサービスの中には発行業務と受付業務、それから相談業務があるというふうに考えているんですが、その3つの業務の具体的に市役所に来られた、来庁されたお客様がどういうふうに移動するか、要は市役所としてどういうふうに誘導するかというのを教えていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） 市役所に来られるお客様については、いろんなケースがございますので、概略ということで説明をさせていただきますが、まず発行業務、証明書等の発行業務について御説明をいたします。

これについては総合案内が今ございますので、総合案内の職員とフロアマネージャーというものを置きたいというふうに考えておりまして、そのフロアマネージャーと総合案内で、何の御用なのかということをもっとお尋ねするという手順になります。それからそれが終わりましたら、発券機で番号札をとっていただいて、申請書を記入していただいてお待ち願うという段取りです。それが終わりましたら、番号で呼び出しをいたしまして、正面のカウンターがございます、発行専用カウンターでございますが、その正面カウンターで発行をするという手順です。できましたらですね、できましたらどうか、すいません、発行が終わりましたら、証明書を受領した後にその場で手数料を支払っていただいて終了という段取りになります。

それから受付業務です。こちらについては、受付というのはたくさんございますが、ここでは住民異動に伴う届出や申請ということの意味するということで御説明をいたしますが、こちら先ほど言いましたように、総合案内、フロアマネージャーが何の御用なのかをお尋ねし、発券機で番号札を取っていただいて申請書を書いていただいてお待ち願うと。その後に番号で呼び出し、所定のカウンター、各業務ありますので、そっこのカウンターにお招きをし、各担当者の職員がそれに合った処理を行うということで、これで終了ということになります。

もう一つありますのが相談業務でございます。こちらについても、今申しました受付業務と同様の取り扱いになるというふうに考えております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） では、もう一つ。ワンストップサービス導入の費用が3,000万円でありました。庁舎改修工事費用ではない住民サービス向上費用としてのワンストップ導入経費というふうに思いますが、庁舎改修工事ではないですと、住民サービス向上のための費用ですと言えるようなことは何かありますか。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） ワンストップサービスは、お客様が市役所をもっと身近に感じていただきたいということで行う今回の工事でございますが、ワンストップサービスの機能を向上させて、また明るく気持ちのいい窓口をつくりたいということで今回改修

工事をさせていただいております。したがって、住民サービスの向上につながるものだというふうに考えております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） では、そのときの不可欠なものは何としますか。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） ワンストップサービスに必要なものというのは、やはり職員のお客様を気持ちよくお迎えするというような職員の心構え、また気持ちよくお帰りいただくというような心構えが必要かというように思っております。ただこれはワンストップサービスを今回するからということではございませんで、ワンストップをよい機会ととらえて、今後職員の接遇面に徹底を図りたいというふうに考えています。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 実は今の2つの言葉を聞きたいために今までの質問をさせていただきました。ワンストップサービスというのは、庁舎の改修工事費用じゃなくて、住民サービス向上のための費用であると、そのための方法としてワンストップサービスの流れであるとか、お客様の相談窓口であるとか、そういったことをやりますよと。そのときの一番必要なものは、課長言われました「お客様」という言葉が私は重要じゃないかというふうに思いました。

実は市民の方、それからいろいろ話を聞くと、市役所とはどうしても遠い存在であるとか、何かお願いをしてもなかなかうまくいかないという部分がイメージ的に多いような気がします。それから受付、死亡届にしても、実は実際には行ったら、実は90分ぐらいかかっているんですね、窓口に行くと。90分って長いですね。それやっぱ早く終わらせたいということがあると思います。ですから、ぜひこのお客様といいますか、市民の方の接遇が大変問題になって来ることだろうと思います。

課長言われたとおり、このワンストップサービスは、市役所の風景とか中の備品が変わったんじゃなくて、市役所の職員の皆さんの気持ちが変わったというワンストップサービスになっていただきたいというふうに思っています。そのときに言われたのが、このワンストップサービスを年内といいますか、年明けから1月の4日から新しい配置の中で朝倉市役所本庁が開庁されます。そのときに、ぜひ職員の皆さんはいいきっかけだ、いいチャンスだということなんで、ぜひこれをお客様というイメージのもとに開設できるような施策を、課長言われたとおり、いいチャンスであるし、いいきっかけであるということなんで、課長としては何かそういった思いなり策はお持ちですか。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） 具体的な策についてはまだありません、考えておりませんが、一番接遇面の強化ということになると、やはり研修、それからこういう名札に意思表示をしますとかそういったことを検討しようかなと。これについては現場の職員もござい

ますので、そちらの意見も聞きながらいい方法を考えていきたいというように思っております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 現場というふうに言われたんですが、先ほど言われた朝倉市庁舎自体全部が、これをいきつけにお客様という体制をとるというチャンスだろうと思うんですよね。ですから、現場じゃなくて市の職員自体が、1月の4日からはこのワンストップサービスが開設されることによっておもてなしという精神が今盛んにいろんな言葉で言われています。宮崎県の実は東国原知事の、昨年度といいますか、やめる前にとられた策の中で、いかに知事自体がトップセールスとして農産物を販売したりいろんなことをPRする、観光PRするというのにはありましたけれども、実は裏では日本一のおもてなしをやるという実はそういった動きが盛んにあったんですね。おもてなし精神というのがありました。

ましてや、実は先ほど登壇したときにお話ししました高校生の未来予想図の中の優勝された朝倉高校2年生の宮崎さんの提言の中にも同じようなことがあります。これにかいつまんでまとめてあるので、よくうまく通じるかどうかわかりませんが。要はおもてなし精神がないと行ってよかったとか、また行きたいねという気持ちにはならないんですよというのが実は提言されました。おもてなしにはいろんな方法がありますと。先ほど田中議員の話がありましたトイレの話もあります。トイレはきれいにしとくというのをおもてなし精神であるし、あいさつをするというのもおもてなし精神ですよというふうにあります。

ですから、このおもてなし精神をぜひ朝倉市本庁全体、本庁といいますか、朝倉市全体の職員の中でおもてなし精神をこのワンストップサービスを事業を開設するとともに、同時にこういった精神でやりましょうというのをぜひ課長の音頭なりいろんな提案の中でやっていただきたいと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） 先ほど現場の職員と言ったんですが、当然のことながら接遇の面については全職員で対応するべきという考えでおりますし、今後もいろんな方法を検討せないかんというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 課長、1月の4日ですよ。やらないといかんと思いますじゃあですね、僕は1月4日からの体制にはならないと思うんですよ。ですから、課長言われたように、この開設することがいいチャンスですよ。市役所と市民の方が身近な感覚になるというチャンスですよというふうに言われているんですよね。

先ほどのおもてなしの中には、実は福岡県の中でもこのおもてなし講座というのも盛んにされております。小川洋知事のあいさつの中にも、実は外国の方が来るときのおもてな

し精神というのは必要ですよというのは、実は文言に入っています。県が主催しております企画地域振興課のほうでも、実は形式におもてなし講座というこういうのを盛んにされております。ぜひ市役所の職員自体がおもてなし精神を持ってやれば、市役所に対するイメージは大変アップすると思うんです。

副市長、今担当課とのやりとりをやりました。おもてなし精神がどうしても必要ですよ。これがやっぱり市長の思いとして、ぜひ身近な存在の市役所という形のためにはこのワンストップサービスが必要だろうということでマニフェストに挙げられたんじゃないかというふうに思います。受け入れる事務方として、このワンストップサービスをただの改修工事だけじゃなくて、住民サービス向上のためになるようなワンストップサービスにするために、副市長はどういう思いを、どういうふうに今から何日かしかありませんけども展開されようというふうに思っているのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） そうですね、一つには、先ほどからおもてなしという意味では住民サービスの向上というところで接遇を中心にお話をしているんですけども、通告の中では別のところになるのかもしれませんが、例えば情報発信という観点から考えますと、朝倉市としてさまざまな政策に取り組んでおると。例えば、こども医療費につきましても、医療費の無償化、あるいは助成の範囲を拡大したと。そのことについて、もっと積極的に住民の皆さんに知っていただくことによって、朝倉市がどういうことを目指して市政を展開しているのかと。ですから、そういったことを住民の方に聞いてほしいと、あるいは住民の方が聞きたいということをうまくやれるような組織にしていかなければいけないんじゃないかと。

ですから、窓口に来られた方には気持ちよく帰っていただくということは当然必要ですし、さらに朝倉市の取り組みを十分知っていただき、そのことによって市民の皆さんが朝倉に住んでよかったというふうに感じていただけるような窓口にしていきたいと。

ですから、朝倉市の取り組みについて、いかにして市民の方に伝えるのかということを経最初に桑野議員がおっしゃった10月29日の取り組みについてもその中の一つなんですけれども、さらに考えて、1月の4日には市民の皆さんにもっともっと朝倉市のことを知っていただきたいと。市外の方についても朝倉市のことを知っていただきたいというふうなことを考えております。ちょっと具体的なところが少なくて申しわけないんですが、以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） じゃあ、私のほうからこういったことはどうですかというのを今からお話をしたいと思います。

やっぱり市役所全体が変わりましたというのは、多分市役所庁内における部署とか何とかというサインというところは大変重要だろうというふうに思っていますし、それから

ハード面も大変必要だろうというふうに思います。ところが、本来は私はソフト面、要はそこに従事してある職員の方、臨時職員の方、いろんな方の従事の内容というのが大変問題になることだろうというふうに思っております。今市長、副市長、それから全職員、ワッペンをはめられてます。これ人権週間における字、文が、「つなごう朝倉」というような形の文言が入ってる部分があると思いますけれども、そういったのは自分ですることによって、この1週間なりこの月間は人権を一生懸命考えるんですよということを自分に自負されている部分があるし、ほかの人に見えるようにしているということは多分やってるんですよというアピールしている部分だろうと思うんですね。

提案なんですけど、ぜひ1月の4日から全職員が「おもてなし精神」とか「あいさつ日本一」とか、そういうシールをはって、来年の1月の4日からは全職員がそういう精神になりましたと、変わりましたと。で、来庁された方も、「何ね、それは」と、「いや、実は1月の4日からワンストップサービスが開設されて、それをきっかけに朝倉市職員がこういうふうに接遇を一生懸命頑張ろうというふうに変わりたいということで、みんな職員そのバッチをしています」というふうな市の職員と市民との会話が あったら、ぜひ変わるような気がするんですね。多分その費用というのは、五、六十万円の話だろうと思うんですよ、全職員つけたとしても。そういう考え方は副市長、どうでしょう。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 非常にいいお考えだと思います。市民の皆さんに我々が市民の皆さんを何て言いますか、気持ちよく受け入れたいと。市民の皆さんにも気持ちよく帰っていただきたいということを意思表示することは必要ですし、そこをなかなかうまく伝え切っていないのではないかとということにつきましては、今議員おっしゃったような形で具体的に示すことによって知っていただけると。そのことが公務の遂行にも寄与するということになってくると思いますので、一つのお考えとして検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） それが一番ベストではないというふうに思うんですが、いろんな意味で、実はみんなに考えていただきたいというのがあります。思ってるんですけどできないというのは、私は考えてないのと一緒だろうと思います。一歩進むためにやっぱり何かをやるということは大切だろうと思うんで、ぜひそういうのは実現できるように、来年の1月の4日から朝倉市が変わるようにぜひお願いをしたいと思います。

それからワンストップサービスの中でもう一つ実は重要なところがあるんですが、実は先ほど課長の中でありましたフロアマネージャーということです。実は、朝倉市の北玄関入りますと、右手のほうに総合案内所というのがございます。これは以前から大変評判がいいといいですか、市民の方がぜひ優しく教えてくれるということで大変評価をいただいているところがあります。打ち合わせのときにフロアマネージャーの話を聞いたら、

実は今もフロアマネージャーはいるんですよ。でも「いるですよ」と言っても、全然いないじゃないですかと。要は目に見えて何にもわかんないですね。それを今度はまたフロアマネージャーと言われていてるんであれば、同じことだろうと思うんですよ。

ですから、今度はどこに行ってもいいかわからないという市民の方が多分いっぱい来られると思います。いきなり入ったら全然風景が変わってるんですから。その中でやっぱりフロアマネージャーの役割というのは大変だろう、大切なことだろうと思います。ぜひこれも提案といいますか、こうしたらどうですかということなんですが、本来ならば職員の方というのは、ぜひ副市長がよく言われる政策形成集団であるというところが私は職員であらうと思っています。それ以外の部分は、例えば委託をするとか、民間委託であるとか、臨時職員のそういった教育を受けた人がやるということでも、私は十分に住民サービスは向上できるというふうに思っています。本来なら、やる仕事というのはそういったことで、それ以外のサービス面とかいうのは、そうしてもいいんじゃないかというふうな気持ちがあるんです。ですから、そういった大変今総合案内所の評判がいいということであれば、それを拡大した中でフロアマネージャーも一緒にしたらどうですかというふうに思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） 大変役立つ御提案だと思いますが、総合案内につきましては、全庁内の案内をいたします。フロアマネージャーにつきましては、その1階のフロアだけの案内というふうになりますので、一応そこで切り分けはしておるところでございます。

フロアマネージャーにつきましては、外からお見えになったお客様がすぐフロアマネージャーだとわかるような何らかの名札をつけるとか腕章をつけるとか、そういった形で対応していきたいというふうに考えておるところです。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 後段で委託の話が出たと思います。窓口業務について委託をしたかどうかという御意見だと思いますが、現在嘱託職員7名ないし10名配置をいたしております。そういった面では、現在、嘱託職員をより研修を積みばそういったことに負けない力が出てくるんじゃないかなと思っております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） すいません、受付業務じゃないんです。フロアマネージャーの話なんです。ぜひフロアマネージャーは、私はそういった意味では今も実はフロアマネージャーというのはいるんですよという話があったんで、しつこく言っているんですよ。今あって何も目に見えない、何にも役に立ってない、市民の方だれも知らんですよ。朝倉市の本庁にフロアマネージャーがいるということ自体を。それは腕章がないから知らないのかもしれないです。でもだれも知らないということは、私はフロアマネージャーと

意識している職員が声掛けをしてないということなんです。何も話をしていないんですよ。お困りなことありませんかとかいう話は一切してないんですよ。だから、フロアマネージャーはいないと一緒なんです。

そういったフロアマネージャーよりも今いろんなところで盛んに言われているいいという組織があれば、そこをフロアマネージャーまで本当にお任せした方がいいんじゃないですかということを一言ってるんですよ。受付業務はまた別ですよ。フロアマネージャーの話、今。ですから、それはどうですかという話。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 今窓口業務、民間に委託いたしておりますが、それまでフロアマネージャーまで含めたところの業務委託という形で、今委託受けてある方が研修積んでますので、即効性があるかもしれません。ただ今のところ嘱託職員でという話をしていますので、内部でも十分協議は必要だと思っております。御提案といたしましては十分わかっております、わかりました。そして、今言われますように、問題点はあります。一目で、腕章とかなないということで、現在市民課のほうに配置いたしておりますフロアマネージャーですが、腕章というのは内部では話しておりますし、一目でわかるように1月4日には、1月4日を待たずにもういいかもしれませんけど、そうしたことでわかるようにしたいと考えております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひそういった形で朝倉市が本当に変わりましたよという内面的なことを表現してほしいなというふうに思っています。そのときの使うためには、やっぱりある部分は委託であるとか何とかということも踏まえたところでぜひ検討していただきたいというふうに思っています。このワンストップサービスは、多分担当課のほうも十分検討されたと思いますが、大野城市であったりとか、小郡市役所であったりとか、太宰府市役所というのは、実はいろんな形の中でワンストップサービスをやっております。そのワンストップサービスは実は話を聞いたらいろんな段階があるようです。ぜひそれを遂行するためには、今後どうしたらいいかということを開設、1月の4日に終わりじゃなくて、それからどうするかということ十分に考えていただきたいと思います。

市長、このワンストップサービス、マニフェストにありましたが、今の事業のやり方、それから私の話の中で何かお気づきなり意見がありましたら。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今度、ワンストップサービスということで、1月4日から新しい窓口になるわけです。しかし、ここに至るまでには3月から現在、もう施行をしてきておったということです。ようやくそのことが最終的じゃないですけども、今の段階である程度形としてできるということで、それにできるような窓口にしようということで今回1階のフロアを改装する。しかし、これで今言われるように、これですべてが終わったとい

うことじゃございません。もっと今から、今の朝倉市役所の建物、物理的な条件、いろんなものを含めて、もっとできるものがないのかということは常に、これは私も含めて職員も含めて考えていかなきゃならんし、そのことに向かって努力をしていかなきゃならんというふうに考えてます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひこのワンストップサービスで、朝倉市が変わったねというふうに市民の皆さんから言われるようなことを大きな期待をしたいというふうに思っております。

では、2番の財政計画について、合併優遇のある時期までという話をしておりますが、新聞記事の中で東北の大震災がありましたので、この合併特例債の優遇を5年間延長するというような実は話がありました。そうなりますとあと10年という形になるんですかね。なると思いますけれども、決算委員会の中でもありましたけれども、実はこの財政計画というのがないので、現状がいいですよ、悪いですよという話はなかなかできませんよと。仮に昨年度の黒字が幾らが本当にこの黒字でよかったのかどうか、もっと事業をしたほうがよかったのかどうかという実は判断にもならないところがあるかというふうに思っております。ぜひせめて10年後までの合併優遇措置があるまでにこの財政計画を出していただきたいと思うんですが、担当課としてはいかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務財政課長。

○総務財政課長（堀内善文君） 財政計画でございますけど、私どもが理解しております財政計画というのは、期間を一定期間定めまして、議員は10年間と言ってありましたけれど、そういう期間を定めまして、歳入を見積もってそれに応じた事業を何をやるのかということを実画的にやるということを財政計画と申しております。それをその計画をつくるためには、歳入の見積もりと歳出の予定を組むことが必要になるわけでございますが、現在どこの団体もそうでございますけど、各自治体というのは国の交付税でありますとか、臨財債とかいろんな補助金、そういうものに依存しております、市税が今の現在は非常に伸び悩んでおりまして、その見通しも立たない状況におきましては、やはり国に依存していると。さらに大震災の影響で財源等が、地方の財源が減っていくのではないだろうかと、そういう危惧もされております。

そういう状況におきまして、本当に正しい歳入が見積もられるかという不安が私ども持っております。現在行われているのは国の税制改革で社会保障費が非常に伸びておりますので、またその税金をどうするというような議論もされております。そういう状況でまず歳入が不安定だということを御理解お願いしたいと思います。

それから歳出におきましては、今後いろんな大型事業が予想されると思います。そういう事業を財政計画に盛り込むためには、いつからどれだけの経費をかけて、何年かけてやるという、そういうきめ細かい計画が要るわけでございます。そういうのが現在では詳細

にまだ決まっておりません。ですので、こういう歳出が何をするかで朝倉市は一般財源というのがどれぐらい必要になってくるかということが非常に不透明な状況でございます。ですので、現段階では私どもが持っている財政計画というものはちょっと難しいなと思っております。

ただそれでは財政の指標になりませんので、財政計画ではありませんが、言葉上のことと言われるかもしれませんが、財政の見通しとしまして、税収が、例えばこのように現状のまま行った場合とか、なかなか推計は難しい状態でございますので、そういう一定の条件でしたり、歳出におきましては、現在計画されております学校の耐震とか大規模改造、それから郷土館とかそういうふうに使っているものは盛り込み、さらに今後予想されるような事業を入れた場合、どのような形になるのか、または合併特例債が先ほど5年延長という形で言われておりますが、まだ正式には決まっておりませんが、仮に190億円丸々使ったらこういう姿になりますと、そういうものは今内々でつくろうと思っております。来年の当初予算を3月議会で議論していただくわけですが、それまでにお示しをできたらなということで今準備しているところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 実は今私が持っているのは、平成22年2月の12日に出された財政推計です。今課長が言われたようなことは、実はこの推計の中の条件として実は入っているんですね。今回私がこれを質問しようというか、そういう話になったのは、実は朝倉市全体の中で今行政経営改革プランであるとか、行政評価システムを構築しましょうとか、それから今盛んにコミュニティの充実をしましょうという形で、盛んにいろんな形でやっております。

実は、そういうのが、じゃあそれをやることよって、例えばこれがこういうふうに変わりますよと。例えば物件費がこういうふうに変わりますよとか。そういうのがこの中であらわれてないんですよ。このあらわれてるのは、一つは人件費だけです。29年度までに474名にしましょうと。いろんな実は朝倉市のいろんな今事業なり行政改革とかいろんなことをやっているんですが、見えないんですよ。だからそれが見えるような実はものをつくってほしいということなんですよ。わかりますかね。

それと、もう合併特例債5年伸びたとしますね。10年後に、じゃあ朝倉市が基金をどれぐらい持ったたら優遇措置がなくても耐えられるかとかいうのを、やっぱりわかっとなきゃいかんと思うんですよ。それすらやっぱりないんですよ。私はその2つをぜひこの中に織り込んでもらわないと、僕は責任ある推計なり見通しにならないような気がするんですね。これは計画は計画ですよという話になりやせんかいなと思ってます。ぜひそこを出してほしいんですが、どうですか。

○議長（手嶋源五君） 総務財政課長。

○総務財政課長（堀内善文君） 第1点の評価がわかるような財政の見通し、推計と言い

ますか、計画ということでございますが、私どもが仮にした場合には、収支が赤字になるような場合もあるかと思えます。いろんな事業を100%すれば、赤字が毎年5億円出るとかそういうことはお示しできると思えます。その差を何で埋めるのかというのが今議員おっしゃるように評価のシステムを使って5億円のうちの1億円を行革でやれとか、そういうことだろうと思えますが、まだ現時点では私のほうではまだそこまでは行きついてないところでございます。考えは十分御理解しているところでございます。

それから基金の財調の分につきましては、期間を私どもも10年を予定しております。ですので、10年のスパンで今からここ二、三年は黒字の分を積み立ててきております。そういうものと合わせまして、10年後に収支が累積で赤字にならないような考え方を持っております。じゃあ財調の基金が幾らあればいいのかというのは明確な答えを持っておりませんが、10年間でちょうどつじつまが合うような感じ、赤字にならないようなスタイルでの基金の構成というのは考え方を持っているところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひ総務財政課のほうで、実は職員が一生懸命やりよるわけですよ。この行政評価も今度やろうとしてますし、行政経営改革プランでもいろんなことで削減してやろうというふうにやってるんですね。ですから、ぜひそういったのをこれぐらいお願いしますよという、総務財政課のほうでやっぱりそれぐらいの目標値なり持ってやらないと、結果的に自分たちがやっていることがこの朝倉市の財政にとってどういうふうにつながってるんだらうかというのがわからないような気がするんですよ。ただやらされているような感じがすると思うんですよ。私だけかもしれませんが。いや、多分すると思います。それであれば、やっぱり自分たちはこの財政のこの部分に関してはこれだけのことを担っているんですという、やっぱり自負される、やっぱり誇りを持ってもらわなくちゃいけないと思うんで、ぜひ私はそこまで検討なり、やっぱり入れていくという見通しをつくらないと、結果論で丸か三角か四角かわからんような見通しになると私はいけないと思うんですが、副市長、どうですか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埤本 潔君） そもそも結果として出てきたものだけを整理するということであれば、計数整理にしかありませんから、そういうことではやはりいけないと。ですから、どのように行政改革に取り組むのか、例えば事務事業の見直しであったり、よく言われる人件費、物件費の話ですね。それから、歳入につきましても、実際資産の売却とかそういうこともなかなか難しいところありますけれども、朝倉市の中で、ネーミングライツみたいな、ホームページのバナー広告とかやってますけれども、多少でも収入増につながるようなこととか、そういう歳入面での若干の見直しと、歳出面での計画的な遂行といいますか、そこら辺をやっていかないといけないと。

ただ実際には250億円の規模でどれだけのものがあるかというのを検証しているんです

けれども、御承知のように、高齢義務負担であったり扶助費であったり、そういうものがかなりの部分を占める。ですから、先ほど財政課長が言っていたのは、社会保障費の問題にしましても国の制度との関係でどうしても基礎自治体の歳出に影響してくるような部分があるとか、あるいはその交付税についても、臨財債に振りかわっているような状況の中で、本当に安定的に歳入として現行制度を前提として考えていっていいのかという若干の不安な面があるというところなんです。ただ考え方としては歳出については、どういうふうに歳出削減を図っていくのかと、そのときの一つの物差しとして行政評価も使いまして、事務事業の点検をして見直しをかけていくと。ですから、なかなかやめられるかというところと難しい部分はございますけど、やり方を工夫していきなり、似たような既存の事業と統合していきなり、様々なやり方がありますから、そこをやっぱり踏み込まないといけないと。そういった中で歳出計画を立てていかないと計数整理にしかないという認識は持っていますので、厳しい中ではありますけども、もっと踏み込んで考えるべきだという考えは持っています。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひ今度出される見通しが、財政見通しが、そういう形の部分であることを期待して、この質問を終わりたいと思います。

続きまして朝倉市の魅力について、活用と発信というのをちょっとまとめて質問をさせていただきます。

午前中の15番議員の一般質問でもありました。それから多分9月だったと思いますが、6番議員の実は朝倉市の魅力というのがありました。私はこの中では朝倉市の魅力というのはみんな理解をしているんだと。それから朝倉市の魅力をもっともっと発見していこうという気持ちはみんながあるんだということで、その部分は触れなくて、じゃあその魅力をどういうふうに活用しているのかとか、どういうふうに発信しているんですかという質問をしたいというふうに思います。

まず活用という部分では、実は自然とか温泉とかそういったいろんな魅力があるかと思っていますけれども、朝倉市としてそのいろんな魅力の中で活用をどういうふうに行っているのかなというふうに思うところがあるんですよね。特に農産物であるとか、温泉というものからどういうふうに観光につなげるのかとか、それから秋月という歴史の中からどういうふうに観光につなげていくかというのが、どういうふうに活用するという部分に関して思いがあるのか、ちょっと2つぐらいしかないんですが、観光と農産物から特産品にというような活用をしてあるかというのをまず手短かにお聞かせ願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 魅力はたくさんあると。魅力を生かす方法として、観光資源として活用するというところでございますが、近年ペシャワール会中村哲さんの紹介をきっかけとして山田堰が脚光を浴びるとか、それから朝倉市は斉明天皇ゆかりの地とかあ

ります。それから近年「さるく」とか「ぶらり」など町歩きの散策体験といった観光も脚光を浴び始めてきたということでございます。甘木門前町の歴史と町人文化も観光資源になり得るということでございますので、私どもの認識といたしましては、磨けば光る資源がたくさんあると。ですから、それを磨いていくということでございますが、どうやって磨くかということですが、こうした新たな資源についてルートを新たに設けるとか、観光ボランティアガイドによる説明を充実する、それからアピールを強化するといった観光資源を生かしていくことが魅力の発信につながっていくというふうに思っております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 農業振興課長。

○農業振興課長（熊谷鉄夫君） 農産物の活用の観点から述べさせていただきたいと思えます。

議員がおっしゃいましたように、朝倉市は非常に県内有数での農産物の生産を誇っております、県内でも三、四に入るような農産物が、農産物、畜産物、米麦も含めましてあるわけでございます。またそれらを活用して、特に味噌類がちょっと多うございますけれども、米味噌合わせ、米麦合わせ、いろんな形でいろんなところで杷木のほうから蜷城のほうまで、いろんな味のものがつくられております。またそのほかにも果樹でアイスクリームをつくったりとかチップをつくったり、またはペースト状にしてさらにいろんなものに練り込むような、生地に練り込むような形で利用できるようなもの、そういうものも現在つくられておるところでございますが、じゃあ活用はそれぐらいかということになりますと、残念ながら私どもの情報の発信不足といえますか、現在ホームページでは朝倉地域の農産物を使った料理コンテストなんかは載せておりますけれども、肝心要の市産の農産物についての情報が少な過ぎるというふうに考えておるところでございますので、まずはそのところからしっかり情報を発信していきたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今農業振興課長が言われた分は、私は活用だろうというふうに思っています。いろんな朝倉の麦を利用してとか、大豆を利用してとかいう形の中で、その中からいろんなものをつくり上げていくというのは活用だろうというふうに思うんですよね。鶴田課長のほうから言われた分に関しては、実はこういった活用方法があるんですよという話だけであって、実際やってますよというところが私は薄かったなというふうに今答弁の中で思っております。

実は、先ほどもそうなんですが、こういったことをやったらこういうふうになるだろうというところがあるのであれば、私は一歩進んで、それをやっぱり実際にやっていく、試行錯誤していくというのが大変重要なことだろうと思うんですよね。やらずしてこういった方法もありますよとか、中島議員、6番議員のときにあったのが、「効果的に利用す

る」とかいう言葉が結構あるんですよ。それから、「味のあるパンフレットをつくりま
す」とかですね。じゃあつくったのという話なんです。じゃあ味のあるってどういうも
んですかということだろうと思うんですよ。だから言葉で言われるのはわかるんですけど、
実際にじゃあどういったのをつくったんですかという、要はそのアウトプットを出しても
らわないと活用とは言えないということをまず私は思っているんで思っといってください。
こういうのがありますよという理想論は活用とは言いませんので。

言われたようにいろんな形の中で市民の方、いろんな団体の中でこれを活用して、魅力
を活用しながらやっていこうということがあるんですが、実はもうひとつ大切なのは、そ
れをいかに発信していくかということだろうと思います。発信する中では、私は朝倉市の
ホームページというのは重要なものだろうと思うんですが、定住人口をふやしますよとい
う市が言ってるにもかかわらず、朝倉市のホームページを見て子育て支援とかいろんな何
とか支援をインターネットで開いて、これは隣の市に住むよりも、隣の町に住むよりも朝
倉市に住んだほうがいいですよというホームページになってると思いますか。副市長、ど
うですか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埴本 潔君） 現在、ホームページリニューアルしまして、いわゆる入れ物と
してはでき上がっているんですけど、なかなかその中に十分書ききれてないと。結果とし
て伝えきれてないということで、私自身反省しておりますし、実際にもっと具体的にわかる
ようにしろということではっぱをかけているんですが、現状ではなかなか伝わってないと。
先ほど最初の質問のときに申し上げた乳幼児子育て支援策として取り組んでます医療費の
政策、県の京築のほうでは若干進んだ取り組みをされてたんですけど、このあたりで朝倉
市、特に深めた政策だったもんですから、もっと市民の方に知っていただいて、近隣のと
ころよりも朝倉市はこういった面でいい政策やってるんですよということを知っていただ
きたいんですが、なかなか十分ホームページ、あるいはその媒体を通じて伝えきれてない
んではないかということは感じております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 担当課の企画政策課のほうに聞きますと、実はこのホームページ
の何とか支援とかいうところは、その例えば子育て支援だったら子育て支援を担当してい
る課に任せておりますということでした。実際に、じゃあ見たのかという話をしたら、や
っぱ見てないところが実はあるんですよ。ぜひ担当している課としては、すべてその内
容までを確認したところで、このホームページで市がやろうとしていることがどれぐらい
発信できているのかというのは、実はぜひ観察してほしいなというふうに思っています。

実は、朝倉市の中では、隣の町よりも隣の市よりもいろんな優れたところがいっぱい実
は市の政策の中にもあるんですよ。もの忘れ外来なんか典型的なことだろうと思うんで
すよ。あんなのないですよ。それから医療費の問題でもそうですよ。そういったところを

全面的に出すような、例えば結婚して新婚生活をどこにしようかと言ったときに、ああ、朝倉市のこの事業があるからいいよって。じゃあ朝倉にちょっと家を探してみようかねというような、思われるような実は発信できるようなホームページにぜひしたい、してほしいというふうに思います。1カ月後ぐらいのホームページを、また一日がかりですべて見ますので、どれぐらい変わったかというのはまた報告をしたいというふうに思います。

それからもう一つ、今度はいろんな特産品であるとか、いろんなものを、観光であるとか、いろんな魅力がございますが、それをどういうふう売り込んでいくかという、発信していくかというのが、実は商工観光課の中でその部隊といいますか、その専門といいますか、そういう方ができたんですが、実はそれが思うように私は進んでないような気がしているんですが。実は私はこういった意見を持っているんですが。朝倉市の中に営業課を設けたらどうですかという話を私はしたいと思います。

実は、この産業であるとか、それから特産品であるとか、農産物であるとか、観光であるとか、観光ルートであるとか、温泉であるとか、文化であるとかいうのを、すべて日本全国並びに海外のほうにもやっぱり紹介するなり買ってもらえるような売る作業というのは、私は必要だろうというふうに常日ごろずっと思っています。市長がトップセールスですよと言われても、私はある程度限界があることだろうというふうに思っているんですが。その辺は発信という意味の、例えば営業部隊を設けたらどうかという気持ちがあるんですが、それに対していかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 名称は営業課というのか、宣伝課というのか、いろいろありますけれども、考え方として積極的に物事を伝えていくと、戦略的にといいますか、積極的に戦略的に伝えていくための組織が必要だという認識は持っています。なかなか今の機構を膨らませていくというのは難しいんですけれども、そういった意思表示をしながら物事をとらえて情報発信していかないといけないという認識は持っていますので、機構改革の中でもそこら辺の議論は今やっているんですが、何らかの形で積極的な情報発信ができるような組織にしていこうという気持ちは持っております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今機構改革の言葉が出たんで次の質問になるんですが、私も思っているのは行財政改革と住民サービスというのは同時達成をしなくちゃいけないというふうに思っているんですね。そのときには今の状況の中、今の朝倉市の組織の中では、私は大変難しいところがあるというふうに思っています。やっぱり大なたをふるわないかんとところはふるわないかんですね。ところが大なたをふるう場所がないんですね。組織の中でそういうチームがなかったりすると、人の財布のことをぐずぐず言っているようなことはなかなかできないんで、ぜひそういった組織が私は必要だと、機構改革が必要だというふうに思っているんですが、副市長、どうですか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 政策をより効率的に機能的にとらえて進めていくということは必要ですし、そのためには今の機構の中でやっておることも十分行われているかというところありますけれども、さらに進めていくために機構改革の中で政策を進められる組織にしていくということが必要だと考えています。特に、部横断的な政策につきましては、事務分掌の中では部長、あるいは企画政策課の業務ということになっているんですが、実際にそれがなかなか進みにくいということは意識の改革だけでは難しいのではないかということで機構改革の中でも十分そのようなことを念頭に置きながら議論を進めていきたいというふうに考えています。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひそういった形で、先ほど言いましたように朝倉市が変わったというところは、本当に皆さんがわかるようにできればというふうに思っています。それを実は遅いかもしれませんが、1月の4日のワンストップサービスが開設するときから朝倉市は変わりましたよという意識づけをぜひしていただきたいというふうに思っております。ぜひそういったのが大きな期待をしているところであります。

それからもう一つは、これは三連水車の中で気づいたこと、三連水車、道の駅ですかね——で気づいたとか、バサロで気づいたことを御提案をしたいというふうに思います。これ発信元は実は先ほど言いました高校生の提言の中でもありました高知県の馬路村、人口1万弱のところは日本全国の中で目立ってきておると。それは実はこの同じものを使いながらアピールしてきたということです。ぜひ農産物、それからバサロとかそういう置いてあるところにこのシールが、朝倉市独特のシールをはっとけば、朝倉市で買ってきたものを朝倉市で活用できるというのがあるというふうに思っておりますので、ぜひ考えていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博之議員の質問が終わりました。

10分間休憩いたします。

午後2時零分休憩
